

今月のイチオシ



陸王

池井戸 潤(著)
集英社

勝利を、信じる。——。会社存続のため、長年培ってきた足袋業者のノウハウを生かしランニングシューズ開発に挑むが、その前には様々な障壁が立ちちはだかる。テレビドラマ化され、県内を舞台に撮影も行われた話題作。



謎解き広報課

天祢 涼(著)
幻冬舎



小説 ちはやふる 中学生編(1)

時海 結以(著)
講談社



世界の果てのこどもたち

中脇 初枝(著)
講談社



くろねこのどん

岡野 かおる子(著)
理論社

公民館図書室利用時間
月曜日・金曜日 午前8時30分～午後6時

村公民館図書室の本を紹介します。
このほかにも、たくさん楽しい本が
皆さんを待っていますので、ぜひご利用
ください。



はばたけ! 昭利村消防団

「合同訓練」



第10分団分団長
林 隆行さん

生越地区を管轄している第10分団は、団員18名と予備隊3名の人数の少ない分団です。普段は、月2回の点検を行います。有事に備えています。

沼田市の多那や上久屋と隣接していて、応援区域となっています。第10分団独自の活動として、上久屋の消防団とは、2年に1度、合同訓練を行っています。生越には、平出ダムがあることもあり、ダムから小型ポンプで水を吸い上げ、お互いの小型ポンプをつないで放水を行う、送水中継訓練を行っています。この訓練を生かし、応援区域の消防団とも協力して地域の安心安全を守る為に、頑張りたいと思います。

最後に、消防団活動は、地域の皆様や家族の理解が大切です。大変感謝しています。

地域包括支援センターだより

実践！介護予防 みんなで楽しくらくらく筋トレ体操♪

今月は『三ツ谷サロン』を紹介します。

- 場所 三ツ谷住民センター
- 日時 毎週(月) 午後2:00～

☆ここが私たちの魅力☆

- 今年で10周年を迎えるサロン!長く続けるコツは、「自分の調子に合わせて無理はしないこと」「ちょうどいい具合でやること」とのこと。
- 参加者は10～15人。みんな住民センターまで歩いてやって来る。行き帰りの道も運動になるからと頑張っている。
- 筋トレ体操と健口体操の後には、とちの木サロン(椽久保北部)直伝の『きよしのズンドコ節』を踊る。何回やっても覚えられなくて笑っちゃうと盛り上がっている。最後のかけ声「ハイ!」が元気にそろえば、途中の間違いなんで気にならない。

みんなの声

- ・みんな仲良し・週1回の楽しみ・気分転換になる・筋トレちょうどいい・くたびれちゃ続かない・ズンドコ節おもしろい・家でもつつい口ずさんでいる・お茶の時間のおしゃべりが楽しいなど



「良いこといっぱい!」と笑顔の皆さん

地域包括支援センターはサロンを応援しています!

ふるさと昭和 ～歴史を訪ねて～

第64回

昭和村と東京家政大学

昭和村ボランティアガイドの会
理事 堤 義樹

昭和村と東京家政大学は縁がありました。当時の研究紀要からその様子を紹介します。昭和二十九年、東京家政大学から久呂保村に「学生の実践的研究を深め視野を広げたい」と、農村生活実習の申し出がありました。きっかけは、卒業生である沼田地区の生活改良普及員の千明ノブ氏によるものでした。村も賛同し、大学との話し合いの結果実施の運びとなりました。時期は、六月の農繁期の二週間とし、実習は保育班と家庭班となりました。保育班は三〜五歳児の季節保育所の設置を行い、家庭班は希望農家に住み込み、衣食住の手伝いをするというものでした。この農村生活実習は約十年ほど続き、季節保育所は川額神社を一回目として、大森神社、小学校、雲昌寺、永井分校、貝野瀬公民館等で場所をかえながら行いました。保育班の学生は約五十名程、後半は三方所での開設もあり百名を超えました。保育児



大学生と中村住職

童も最初は三十五名でしたが、開設場所が増えるにつれ、百名を超える人数となりました。次第に、幼児教育の大切さ、学生達の日々の姿が理解されていったようです。また、家庭班での実習も三〇名程の学生が参加し、各家庭で炊事、掃除、洗濯等の手伝いを行いました。

昭和三十三年、常設保育への機運が高まり、入原では雲昌寺を中心に常設の準備をするために中村一雄住職と学生五人及び保母助手二名で保育を開始しました。「子育保育園」と名付けられ、八十三名の入園者がありました。

村誌久呂保では「実習生は毎年若く美しい翼をもって、渡り鳥の如く、六月になると必ず来村して奉仕を続けている」と感謝を述べています。

参考 東京家政大学紀要等

「趣味」

私は、趣味でスノーボードをやっています。スノーボードの魅力は、板を履き雪上に出るだけで、普段体感できない動きやスピードを体感できる事と、自然のすばらしさを手頃に体感できる点だと考えています。自分の胸ほどの高さまで積もった新雪や、常に氷点下の極寒は、自然の強大さを実感させてくれます。一方で、晴れた日の眺望や、友人と滑る一日は、如何ともしがたい素晴らしさがあります。

衰退気味であったスキーやスノーボードも、近年では、多くのメディアで取り上げられ、若い世代を中心に人気が再燃しています。この機会に、より多くの人がウィンタースポーツの魅力を知り、この業界がより一層発展することを、スノーボーダーとしてスキー場スタッフとして心から願っています。そして今後も怪我無くスノーボードを楽しみ続けたいと思います。

◆◆◆◆◆
今回の登場者は、竹内 祐太さん(23歳 藤井)です。

はっらっ
トーク



林 宏幸さん
(22歳・池原)

次回登場者紹介

マブダチです(笑)